等高線表示設定の変更

2023年01月23日

HelperTex Office

概要

CTRソフトウエアでは、等高線を極点図、逆極点図、ODF図表示に使用している。

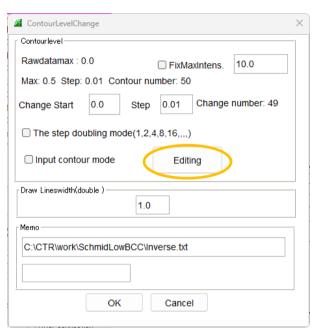
最近、Schmid因子描画にCubic、Hexaghonalのステレオ三角形を利用し 更に、ODF解析後のrandom定量にODF図を利用している。

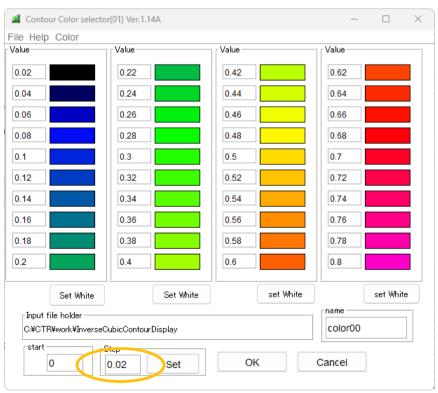
Schmid因子は0.5以下、randam定量では1.0以下を用いる。

通常最大密度が1.0以上を扱っていた部分の変更が必要になり見直しを行った。

操作上の変更点

等高線レベル部分から起動される





最小間隔 0.01->0.001も入力可能に変更 表示出来る等高線本数40

影響を受けるソフトウエア

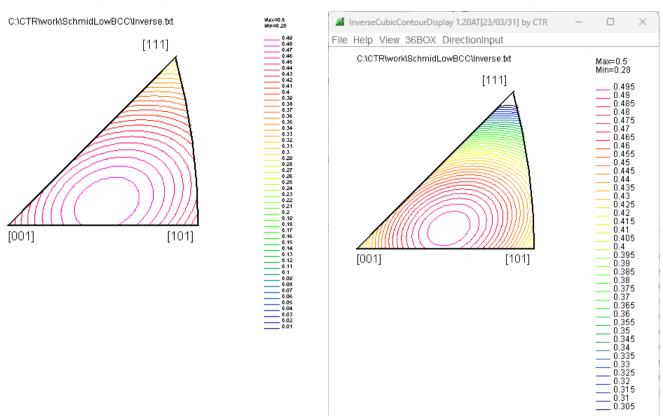
BCCSchmidFactorCalc
InverseCubicContourDisplay
InverseContourDisplay
PoleFigureContourDisplay
GPODFDisplay

BCCSchmidFactorCalc

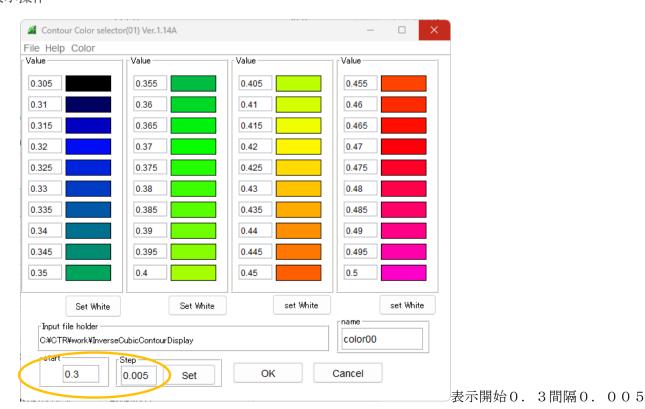
InverseCubicContourDisplayを表示に使用している。 以下の画像はSlipシステム



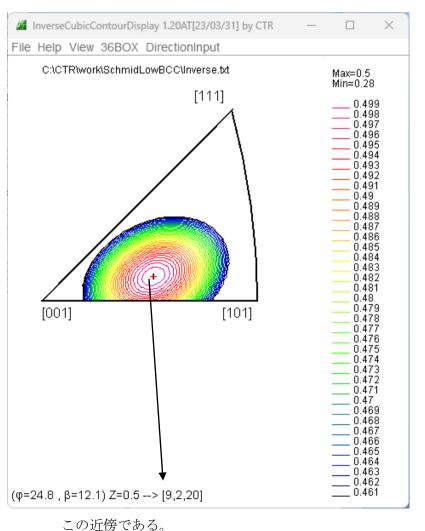
計算結果は0.3以上のデータを0.01ステップで左図を表示している。 改良により表示開始値を0.3、間隔を0.005に変更することで右図が表示できます。



右図表示操作

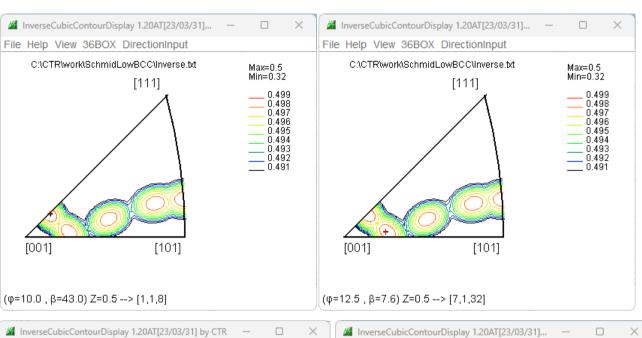


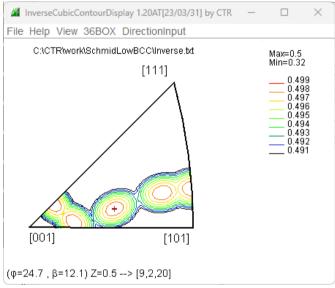


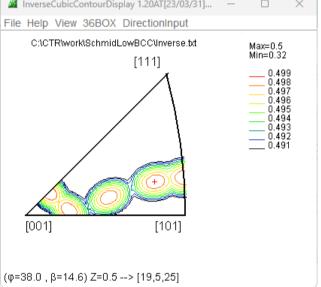


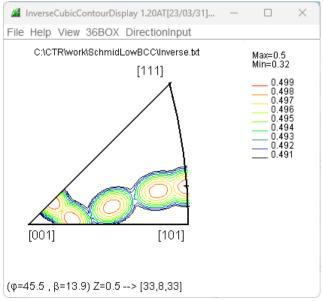
BCC全てのSlipシステムでは



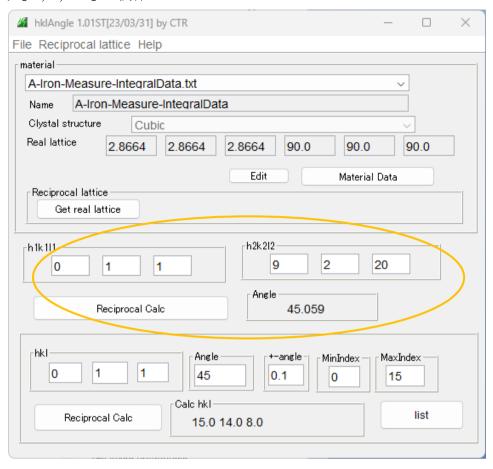








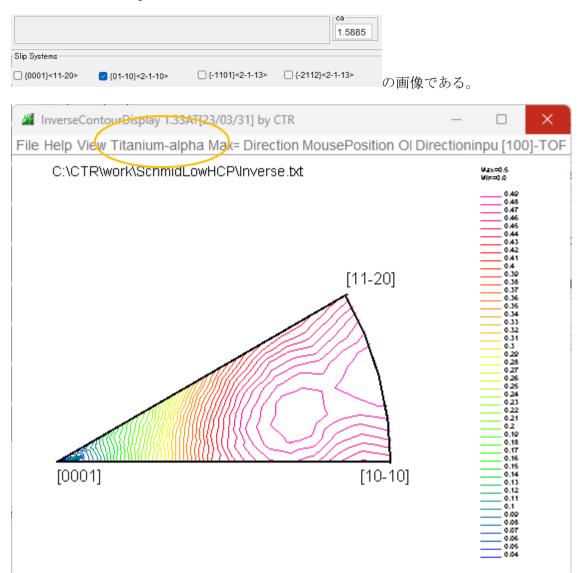
{011} [9,2,20] の関係



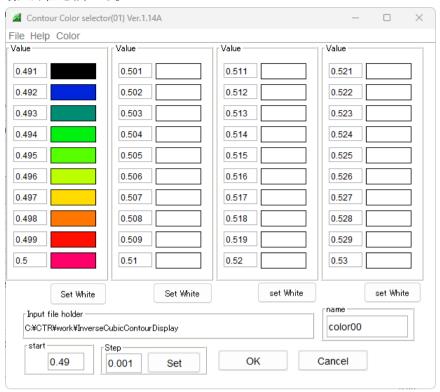
S l i p 因子の最大値は材料面法線と引っ張り方向が 4 5 度の時最大になる事から確認出来ます。

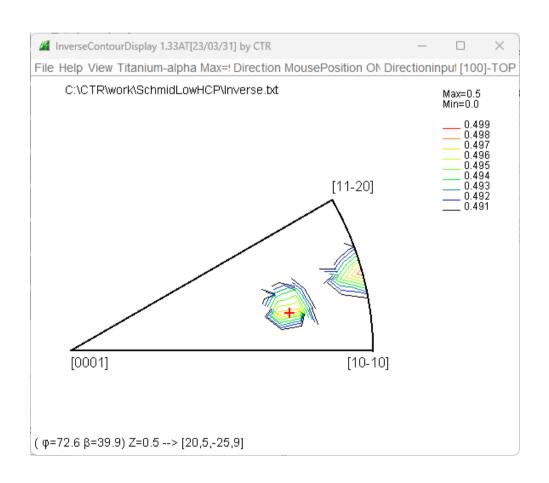
HCPSChmidFacorCalc

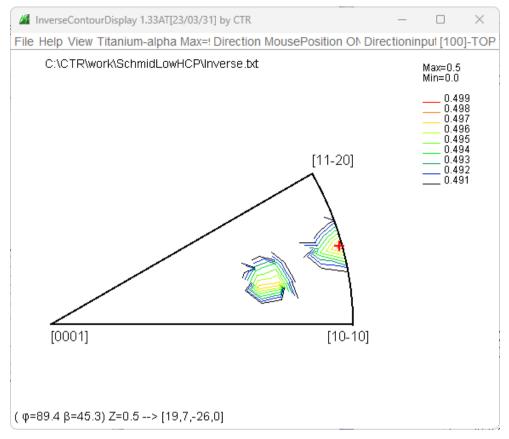
InverseContourDisplayを使用して表示している 以下の画像はSlipシステム



最大方位を調べる。



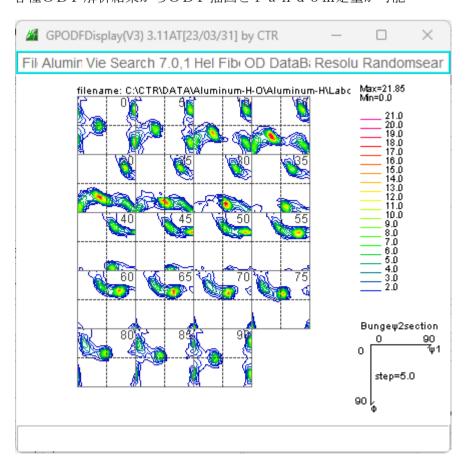




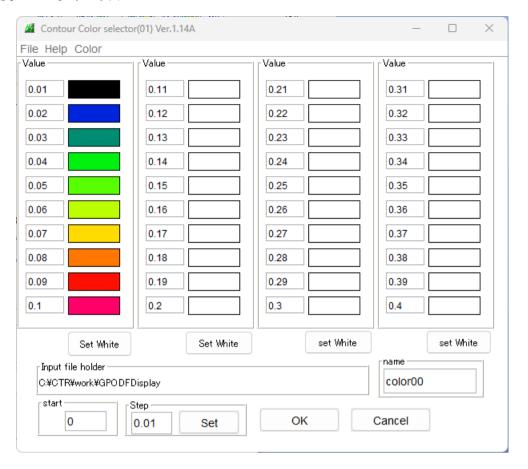
最大密度方位の確認が可能

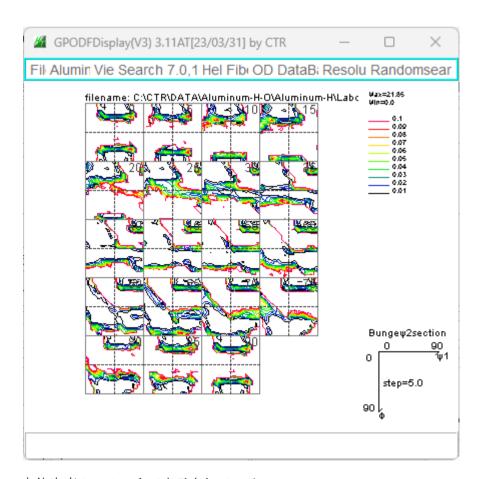
GPODFGD i splay

各種ODF解析結果からODF描画とrandom定量が可能



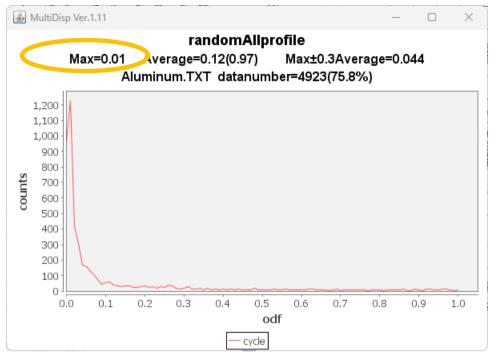
方位密度1. 0以下の表示





方位密度 0.01まで表示されている。

ODF 図上、random方位の数が常に最大であることから1.0位以下のプロファイルは



randomは1%以下のであることが判明します。

ODF解析が直接法に利用可能、ゴーストが多い手法には利用できません。

